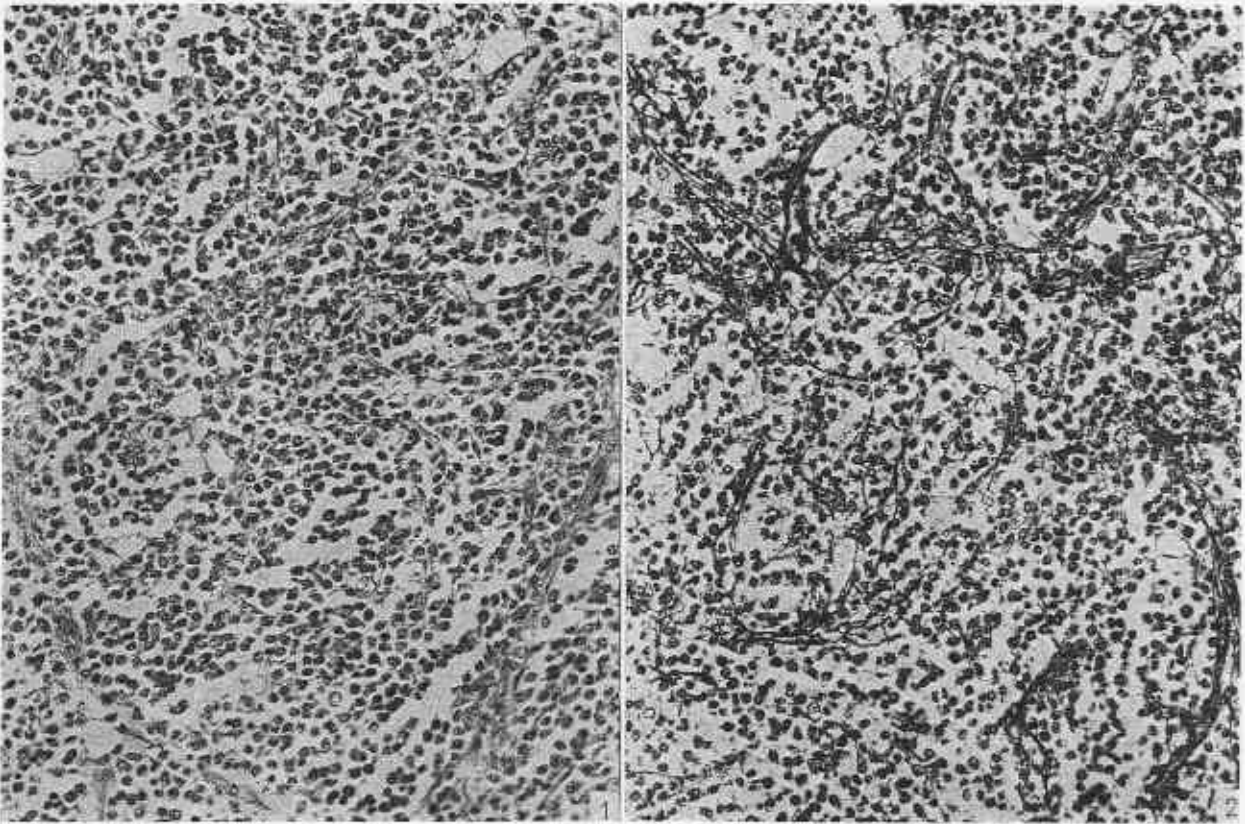


犬の細網肉腫症

帯広畜産大学家畜病理学教室出題，第7回獣医病理学 研修会標本 No. 102



犬，品種，Sheep dog，性：牡，年齢：7カ月

臨床所見：1966年8月22日，上頸部皮下（左）に指指頭大腫瘍発見。同9月15日手術し除去（材料なし）。同10月2日，上頸部皮下（右），上膊部皮下（右）に腫瘍発生，食慾減退。同10月4日，下腹部，胸部，頸部皮下に米粒大腫瘍多発。同11月6～10日，腫瘍増加目立つ。同11月11日，食慾廃絶，嘔吐，経過悪化。同11月16日午前5～6時に斃死。

主な肉眼所見：1. 全身リンパ節の腫大，特に胸腔内，浅頸リンパ節の著しい腫大。2. 全身皮下および骨格筋における米粒大～大豆大腫瘍密発。3. 肺，睪丸，舌に同様の腫瘍。4. 脾，扁桃腺の出血および濾胞の腫大。

組織学的所見：腫瘍の Parenchymzellen は多くは円形または類円形の核を有しているが，その形は多型性で深い湾入を示し，そのために核は腎臓形または瓢箪形を呈

するものもある。核分裂を中等度にとり，クロマチン量はかなり多いがクロマチン網は太く粗であり，核小体を認めるものはすくない。腫瘍細胞にはすこしく小形で円型化し遊離したものもあるが，多くは胞体は広く突起を出し星形または紡錘形を呈し，これらの突起は互にかみ合つてエオジンにうすく染つた網状の組織を構成し，または索状に列んでいる。Stroma はあきらかに認められるが壁の菲薄な毛細血管を形成しているにすぎない。（写真1）鍍銀標本では好銀線維がよく発達し，腫瘍細胞の中に細胞にからみ合つて密接な関係を示して染め出されている。（写真2）このような所見からこの腫瘍細胞は細網細胞由来の性格を十分そなえていることが明白である。したがつて本例は細網肉腫症と診断した。

（写真，睪丸実質における腫瘍病巣ホルマリン固定。

×180 (1) H. E. (2) 鍍銀標本)